



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：500千円

SUAC映画祭

目的・趣旨

多様な映画を見る機会に限られる浜松市において、一般的には流通しにくい社会性芸術性の高い作品（映画）を上映し、異文化理解と地域交流を促進する目的で映画上映会を開催する。文化施設やアーティスト、商店街等の様々な方の協力を得て活動することで、映画祭（＝大学）を通して地域の新たな魅力に気がつき参加者同士の交流が生まれ、それが新たな活動につながることを目指す。また文化政策学部の学びとデザイン学部の学びを生かして運営することで、本学の特徴を広く知ってもらう機会にする。

日時・場所

平成 30年 6月 29日から平成 30年 7月 1日
木下恵介記念館、静岡文化芸術大学、友豊ビル、浜松市鴨江アートセンター

体制

（実施代表者）文化政策学部 芸術文化学科 准教授 高島 知佐子

共催・後援等

（協力）株式会社アサヒコーポレーション、木下恵介記念館
浜松市鴨江アートセンター、ゆりの木通り商店街
（助成）公益財団法人浜松市文化振興財団

内容

6月29日～7月1日の3日間、「アイ（愛、哀、逢、I…）」をテーマにアジアの9作品を上映する映画祭を開催した。作品を上映するだけでなく、上映後に映画にちなんだワークショップやトークイベントを行うことで、映画祭を通じた異文化理解と地域交流を深めた。今回は3日間とも学内外の異なる会場を利用し、街中の賑わい創出や浜松市の文化施設の魅力を知ってもらう機会となることを意識した。また、音楽作品では初の試みとなるダンスや演奏のワークショップを開催しトークイベント講師には浜松で暮らす在日外国人を招いた。講師の仲間である複数の在日外国人も参加し、多文化な交流の場にもなった。

【上映作品】

| タイトル | 制作国 |
|--------------|---------|
| ソニータ | イラン |
| 鏡は嘘をつかない | インドネシア |
| タレントタイム 優しい歌 | マレーシア |
| 海洋天堂 | 中国 |
| ポエトリー アグネスの詩 | 韓国 |
| すれ違いのダイアリーズ | タイ |
| ラオス 竜の奇跡 | ラオス |
| ソング・オブ・ラホール | パキスタン |
| ザ・トゥルー・コスト | バングラデシュ |

結果・成果

3日間10回上映し、合計346名が参加した（学生スタッフ、講師除く）。年代別では10代 8.9%、20代～30代 22.3%、40代～50代 32.3%、60代以上 36.4%で今後若年層へのアプローチが課題である。来場回数では「初めて」が49.3%「2回目・3回目」が50%と新規も多く、これは狙い通りの結果であった。プログラムに関しては、音楽作品、中でも「ソング・オブ・ラホール」とそのワークショップへの評価が高く、「演奏とダンスを楽しみながらの会話と食事、特別に素晴らしいひと時だった」といった声をいただき、アーティストと参加者の交流や新しい発見の場となったと言える。

